

世界銀行で講演しました(2013/7/18-19)

場所：米国国立小児病院・世界銀行・災害人道支援センター（ワシントン DC）
テーマ：「巨大災害に対する医療対応と兵庫行動基準改訂にむけた国際会議企画」

7月18-19日（水）に米国ワシントン DC を訪問し、世界銀行の災害リスク低減部門において小野裕一教授と江川新一教授が講演しました。また、災害に対する医療対応を中心とした兵庫行動基準のプライオリティー5 改訂にむけた国際会議開催にむけての企画を開始しました。

世界銀行において社会対応部門から小野裕一教授が「災害復興における IRIDeS の役割と災害統計の必要性」について、災害医学研究部門からは江川新一教授が「広域大規模災害における医療対応」について講演しました。過去の繰り返し訪れる災害によりわが国の災害医療体制が整備されていたこと、東日本大震災で対応できたこと、できなかったこと、今後の予想される大災害に対する災害医療の取組を紹介しました。世界銀行からは約 20 名の参加があり、災害時の国際医療支援の在り方や、感染症の質的・量的変化、どのような状況が生と死を分けたかなどについて積極的な質問がありました。

同時にワシントンの国立小児病院を訪問し、病院の事業継続計画(BCP)、近郊の病院群と連携したヘリコプターによる小児の救命活動、Safe Kids Worldwide の展開を見学しました。さらに米国軍医養成大学にある災害人道支援センターにおいて広域大規模災害に対する医療対応について協議し、兵庫行動基準のプライオリティー5における医療対応を中心とした改訂作業にむけた国際会議を開催する企画を開始しました。



講演の様子



セミナー聴講者

文責：江川新一（災害医学研究部門）